

巻頭言：知の成果を世界へ繋ぐ『伴走者』としての大学図書館の役割	1
令和8年度 神奈川県図書館協会総会開催報告	2
役員名簿、委員会名簿	2
事業計画	3
予算、表彰式、表彰受賞者	4~5
100周年記念事業	5
講演会概要「未来を見据えた図書館の運営」吉成 信夫 氏	5~7
令和8年度 人材育成事業	8

知の成果を世界へ繋ぐ『伴走者』としての大学図書館の役割

神奈川県図書館協会 大学図書館協力委員会委員長（相模女子大学附属図書館）

黒井 由美

令和7年度及び令和8年度大学図書館協力委員会委員長を拝命しております相模女子大学附属図書館の黒井です。当委員会は、神奈川県内大学図書館の内、横浜国立大学、横浜市立大学、神奈川大学、関東学院大学、鶴見大学、東海大学の各国公立7大学のご協力の下、主に「各大学図書館の日常業務等で今困っていること」をテーマとした調査研究を行い、活動しております。

現在、大学を始めとした各研究機関では、国の政策により研究成果の O ^{オープンアクセス} A に関する施策が急激に進んでいます。2025年度以降に公募された科学研究助成事業（科研費）等、公的資金に係る研究計画においては、学術論文及び根拠データの学術雑誌掲載後、即時に機関リポジトリ等の情報基盤に掲載すること（即時OA）が義務付けられました。多くの大学において、図書館、研究推進部署、情報システム部署が連携してシステム構築を行う必要性に迫られる中で、当委員会委員館の即時OAへの対応について非常に活発な情報交換ができたことは、各館にとってとてもよい刺激となったことと思います（少なくとも当館はかなりの刺

激を受けました。）。

アクティブラーニングやPBLが定着し、産学官連携が盛んに行われ、研究成果の社会実装化が進む中、大学図書館は、従来の「本や雑誌を揃え、保管し、貸し出す」というインプット機能から、「大学の成果を世界に発信する拠点」としてのアウトプット機能へとシフトしています。ラーニングコモンズとしての機能や、機関リポジトリを中心とした研究成果発信の拠点として、大学図書館はいわば「学内の知の成果を最大化し、世界へ繋ぐ伴走者」であると言えるのではないのでしょうか。

学術的な知の拠点である大学図書館は、小学校や中学校、高等学校の探究学習においても非常に重要な役割を担うようになってきました。今後も大学図書館協力委員会では、各館のお力添えをいただきながら、現在と未来の学術研究振興のために意見交換を行い、活動して参ります。引き続き皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和8年度 神奈川県図書館協会総会開催報告

令和8年度神奈川県図書館協会総会、表彰式、講演会が、4月23日(木)に神奈川県立図書館本館4階学び交流エリアにて開催されました。

令和8年度 総会

村上剛史会長(神奈川県立図書館)より挨拶があり、会長が議長として議事を進められました。

審議事項は、令和7年度事業実施結果及び決算について、令和8年度事業計画(案)及び予算(案)について、100周年記念事業について、以上3点の審議が行われ、いずれも原案通り承認されました。

その他報告事項として、令和8年度委員会委員長・委員について、令和7年度会員の入退会状況報告、令和8年度人材育成について森谷事務局長より説明がありました。

これに対し、意見は特にございませんでした。



総会風景 (撮影:事務局)

令和8年度 役員名簿 (令和8年4月1日現在)

会長	村上 剛史	県立
副会長	大塚 尚子	横浜市中央
副会長	久保野 雅史	神奈川大学
理事	久喜 玄一郎	県立
理事	清水 明	県立川崎
理事	柳生 留美	横浜市中央
理事	古俣 和明	川崎市立中原
理事	加藤 博昭	横須賀市立中央
理事	山口 正憲	葉山町
理事	和田 直美	相模原市立橋本
理事	小林 宏至	厚木市立中央
理事	根岸 恵子	茅ヶ崎市
理事	川村 佳子	寒川総合

理事	天野 泰	中井町農村環境改善センター
理事	田中 啓之	相模女子大学附属
理事	森岡 緑	横浜国立大学附属
理事	古久保 哲朗	横浜市立大学
理事	井上 和人	関東学院大学
理事	伊倉 史人	鶴見大学
理事	荻野 アンナ	県立神奈川近代文学館
監事	白藤 香織	男女共同参画センター横浜
監事	小股 昭	大倉精神文化研究所附属

[事務局]

事務局長 森谷 芳浩 県立

令和8年度 委員会名簿 (◎は委員長)

<企画委員会>

◎柳生 留美	横浜市中央
古俣 和明	川崎市立中原
加藤 博昭	横須賀市立中央
和田 直美	相模原市立橋本
黒井 由美	相模女子大学附属
宇佐美 恒城	県立神奈川近代文学館
柿澤 淳子	県立
山内 正伸	横浜市中央
大橋 哲	神奈川大学

<広報委員会>

◎古俣 和明	川崎市立中原
矢島 薫	県立
笛木 拓也	川崎市立中原
原 由花	県立川崎
白石 ひなの	横浜市中央
畠中 優果	綾瀬市立
猪俣 晴香	平塚市中央
森 美沙	横浜国立大学附属
加藤 小百合	東海大学付属
勝又 雄	ウィリング横浜情報資料室

<地域資料委員会>

◎加藤 博昭	横須賀市立中央
加藤 ひかり	県立
谷合 伸介	横須賀市立中央
松川 栄子	横浜市中央
荻部 佳乃	座間市立
鳥居 紗也子	小田原市立中央
牧 幸男	鶴見大学
中島 淳	県立公文書館

<研修委員会>

◎和田 直美	相模原市立橋本
石尾 久美子	県立
中村 佳菜子	相模原市立相模大野
横山 詩乃	県立川崎
秋山 智紀	川崎市立高津
橋本 有香子	横浜市中央
只腰 あずみ	鎌倉市中央
有富 哲矢	海老名市立
水島 美和	茅ヶ崎市立
古田 栞	秦野市立
梅都 乃麻	伊勢原市立
手塚 綾子	南足柄市立
百瀬 幸子	関東学院大学
坂本 里奈	横浜市立大学
長尾 典子	海洋研究開発機構

<大学図書館協力委員会>

◎黒井 由美	相模女子大学附属
森岡 緑	横浜国立大学附属
高柴 裕太	横浜市立大学
後藤 セキ子	神奈川大学
百瀬 幸子	関東学院大学
牧 幸男	鶴見大学
阿部 真由美	東海大学付属

- (1) 県内図書館の地域資料等の調査研究
(地域資料委員会)
- (2) 大学図書館加盟館間の情報交換と調査研究
(大学図書館協力委員会)

3 研修事業 読書推進事業

- 館員の資質の向上を図るための研修の企画
 - (1) 研修委員会の開催
- 研修活動の運営
 - (1) 見学(国会図書館等、公共図書館、大学図書館)
 - (2) 講座(大学図書館研修、窓口サービス、レファレンスサービス、図書館利用の促進等)
 - (3) 児童担当者向け(児童サービス等)
 - (4) 図書館総合展参加(ポスターセッション等)
現地開催 会場:パシフィコ横浜
2026年10月20日~22日(3日間)
オンライン開催
2025年10月13日~11月13日(32日間)
 - (5) その他
- 読書推進活動
 - (1) 子ども読書活動推進フォーラムを県立図書館と共催する。

4 広報活動事業

- 図書館活動についてPRを行う。
 - (1) 広報委員会の開催
 - (2) 「神奈川県図書館協会報」第295号~第298号を発行する。
 - (3) 協会ホームページのメンテナンス作業を実施する。
 - (4) 図書館総合展への参加(ポスターセッション等)
 - (5) その他協会活動についてPRを行う。
- 「神奈川の図書館2026」を刊行する。

5 表彰事業 共催・後援事業

- 県内図書館の功労者及びに永年勤続職員に対して表彰を行う。
- 県内図書館事業の振興を図る上で特に有意義な事業の奨励(共催・後援)

令和8年度 事業計画

1 協会の運営・連絡

- (1) 総会の開催
- (2) 理事会の開催
- (3) 企画委員会の開催

2 調査研究事業

- 図書館及び図書館資料に関して、次の調査研究を行う。

6 人材育成事業

- 特定の研修への参加助成金を交付する。
- 研修結果を会員へ周知する。

7 加盟館の相互協力事業

- 共通閲覧証による相互利用(加盟大学図書館間)

令和8年度 予算

<一般会計>

収入 (円)

分担金等収入	各館分担金	1,529,000
	個人会員会費	24,000
	日図協団体活動費	112,448
繰越金	前年度繰越金	548,396
雑収入	雑収入	3,448
合計		2,217,292

支出 (円)

事務費	事務局費	190,000
事業費		
会議費	会議費	54,000
調査研究費	調査研究費	124,400
	館員等研究費	307,000
広報活動費	会報等発行費	1,010,000
	総合展費	43,000
表彰費	表彰費	122,000
記念事業等特別会計繰出金		10,000
予備費		356,892
合計		2,217,292

令和8年度 表彰式

表彰式では、神奈川県図書館協会及び県内図書館事業に尽力し、功績のあった功労者1名3団体、会員施設に20年以上勤務した永年勤続職員12名の表彰がありました。



表彰式の様子 (撮影：事務局)

令和8年度 表彰受賞者

★功労者・団体 1名3団体 ()内は推薦施設名

○相澤 雅雄 (横浜市緑図書館)

昭和の時代から横浜市緑区・都筑区等の地域史の研究に努め、緑区史編集委員・横浜市史編集協力員・緑区郷土史研究会事務局長等を歴任し、多くの郷土史に関する著書や地域情報誌での連載記事を執筆されています。郷土史の資料の収集・編纂に大きな実績を残すほか、多くの講演会の講師等も努め、横浜市緑区・都筑区の郷土史の研究や郷土愛の醸成に大きく貢献しています。

○朗読の会 クローバー (横浜市神奈川図書館)

平成26年4月に結成され、図書館では、毎月第3土曜日に文学作品等を朗読する「大人のための朗読会」を開催しています。

毎回定員の20名近くを集める人気イベントで、リピーターとして図書館を訪れる方も少なくありません。令和6年度には通算100回を迎えました。耳から楽しめる読書体験の提供を通じて、市民の読書活動推進に貢献しています。

○茅ヶ崎市点訳赤十字奉仕団 (茅ヶ崎市立図書館) 昭和50年2月に創立し、令和7年2月には創立50周年を迎えました。

点字図書・雑誌の作成や視覚障がい者へのプライベートサービスや交流、中途視覚障がい者への点字指導のほか、地域・学校等への啓発活動などを含めて赤十字の理念達成に関する活動を行っています。長年にわたって、茅ヶ崎市立図書館の蔵書の点訳等、視覚障がい者への情報提供に貢献しています。

○本の修理 “いそご” (横浜市磯子図書館)

平成17年4月より活動を開始し、毎月2回、図書の修理を継続的に行っています。高度な修理技術を駆使し、令和6年度には577冊の図書を修理しました。また、毎年図書館で開催されるボランティア向け「本の修理講座」では講師を務めています。図書の保存と利用に欠かせない存在であり、市民が読書を楽しめる環境づくりに多大な貢献をしています。

★永年勤続職員	12名
森 あかね	神奈川県立図書館
松川 栄子	横浜市中心図書館
清水 順	横浜市中心図書館
村川 礼	横浜市中心図書館
安田 広美	横浜市中心図書館
有川 裕子	横浜市鶴見図書館
菊池 真理	横浜市南図書館
相原 史	横浜市保土ヶ谷図書館
櫻井 美子	横浜市都筑図書館
小林 由理子	横浜市戸塚図書館
藤田 潮里	藤沢市総合市民図書館
高野 沙弥	田園調布学園大学図書館

100周年記念事業

神奈川県図書館協会は2028（令和10）年に創立100周年を迎えます。100周年を記念した様々な事業を行います。総会で以下の内容が承認されました。

- (1) 記念式典の開催
（講演会もしくはパネルディスカッション）
- (2) 100周年記念出版
『神奈川のふみくら』（改訂版）の刊行
 - ・電子媒体により公開する。
 - ・令和8年度から調査、編集を開始する。作業は事務局を中心に企画委員会が担当する。
- (3) 「神図協100年年表」公開（Webサイト上）
- (4) 図書館総合展ブース出展（ミニブース）
- (5) ノベルティ作成（記念式典配布）
- (6) 記念ロゴの公募
 - ・100周年記念の事業を周知・広報するためマークを作成する。
 - ・加盟館の職員・一般人から広く公募する。
 - ・令和8年度7月以降～9月中旬にかけて募集し、事務局と図書館総合展ポスターセッション（一般投票）にて1次、企画委員会にて2次、理事会で最終審査を行い決定する。
 - ・デザイン考案者に対しては、令和9年度の総会にて表彰式を行う。
 - ・採用数（1点）、賞金（図書カード1万円分）

令和8年度講演会概要

講演「未来を見据えた図書館の運営」

講師：吉成 信夫 氏

（元みんなの森 ぎふメディアコスモス総合プロデューサー）



講演会の様子（事務局撮影）

<以下概要>

岐阜市立中央図書館を中核とした複合文化施設「みんなの森 ぎふメディアコスモス」の総合プロデューサーを務めた吉成信夫さんをお招きして、「未来を見据えた図書館の運営」についてお話いただきました。

2015（平成27）年に開館したメディアコスモスは、開館1年で来館者123万人を達成しています。「自分が経験し、自分の身体を通して培ってきたことを言語化してお話します。」という前置きの通り、理論や前例踏襲に留まらない、現場での失敗や試行錯誤に裏打ちされた実践的なお話を伺いました。

ハコモノは変えられる

吉成氏は40歳を機にご家族で東京から岩手に移住し、その後17年の間に「石と賢治のミュージアム」（一関市）、「岩手県立児童館」（一戸町）、「森と風のがっこう」（葛巻町）という3つの文化施設の変革に関わりました。その経験から、施設はあくまでもハードであり、そこにどう魂を込めるかで「ハコモノは変えられる」と実感したといいます。

吉成氏が変革を行う上で大切にしている「大人は誰でも最初は子供でした。（でもほとんどの大人がそのことを忘れていきます）」というサン＝テグジュペリ『星の王子さま』の序文は、図書館に関わる全ての人に共通する立ち位置であってほしいと強調されました。

図書館長を志したきっかけ

図書館に対する考え方が大きく変化したのは東日本大震災でした。機能が大きく損なわれた図書館や、居場所を失った人々の現状を知り、「人が集まれるような滞在型の図書館を作りたい」という思いを持つようになります。

「公民館のように人との関わりを前提とする場所とは異なり、1人でも、大勢でもいられる、自由度が高い場所であることが図書館の大きな可能性であり、この自由度を使わない手はありません。」という言葉が印象的でした。

図書館に来ない人を振り向かせる

一方で、従来の図書館文化への違和感も語られました。ご自身の経験として「見張られている感じがして委縮していた」と語り、“喋っては駄目”“飲み物は蓋付きで”といった数々のルールが来館者に心理的な壁を生んでいる一面があるという問題提起がありました。

本が好きな人だけでなく、普段図書館に来ない人たちを振り向かせるには、従来のように「いい本だから読みなさい」と上から押し付けるのではなく、“横でボソボソ囁く位の距離感”で関わることが大切だと語られました。

マインドセットの転換

空洞化の傾向が強い地方の中心市街地に公共施設を作り、そこに普段来ない人たちが滞留し還流が起きることを視野に入れて建てられたメディアコスモスは、建築家 伊東豊雄氏によるカテドラル（大聖堂）のような、壁のない広大な空間です。「コミュニケーションする場所としての図書館」を掲げながら、昔ながらの組織と考え方で開館準備が進められていました。

開館3ヶ月前に館長に配属された吉成氏の仕事のほとんどは、築50年の旧図書館で長年働いていた司書のマインドセットを、最新鋭空間で働く司書へと転換させることだったといいます。

メディアコスモスは、「子どもファースト」「中心市街地の活性化」「シビックプライド」という3つの政策的要請があり、その中心に図書館が位置づけられました。

司書と価値観をすり合わせながら試行錯誤を続け、開館後の来館者は、年間約15万人から123万人と大幅に増加、40歳以下の利用者の割合は29.7%から47.4%に上がりました。

来館者数だけが図書館の指標ではないと前置きしながら、人が来ないと予算が付かない現実

にも触れ、理想と現実の両立を図る姿勢が示されました。

子どもの声は未来の声

メディアコスモスの象徴的な理念が「子どもの声は未来の声」です。子どもたちの豊かな未来を応援することを中心に据え、館内にも掲げられています。

壁のない開放的な図書館では音の問題が避けられません。しかし、吉成氏は「子どもが騒いで大きな声で泣いても、それは未来からの声だと思って受け止める。そして去る時間が近い私たちは余裕をかましましょう。その余裕こそが文化ではないですか？」と笑顔で話されました。

決して放任ではなく、不快だと判断できる場合は注意を促し、静かに過ごしたい人への配慮も行っています。3世代先までを見通しながら、多様な利用者のニーズを共存させる実践的な方法が示されました。

司書は本と人をつなぐ

続いて、図書館の核となる司書について触れました。これからの司書の仕事は、従来の図書館業務を基礎に、司書それぞれが思う“楽しい”という感覚を伝えていく「本と人をつなぐ情報のコーディネーター」であることが求められると強調されました。

真面目な司書ほど、個人を出してはいけなさと考えがちですが、主体性と客観性のせめぎあいが、ワクワクする図書館づくりには欠かせないといいます。

ワクワクの一例として、吉成氏が小学生の頃、教師だったご両親から与えられた二段組の世界名作全集は開いた瞬間に読む気をなくし、情報誌『びあ』のはみ出し欄（情報枠外に掲載された短文の読者投稿）を読むのが大好きだったというエピソードに絡めながら、「大事なことほど中心に置かず子ども自身に発見させること」を念頭に置いた棚作りが紹介されました。

星の王子さまの序文が改めて想起されました。

市民と創る、市民が創る空間

メディアコスモスは、市民が本を通して自分を語る図書館も提案しています。具体的な取り組みとして、市民が企画を持ち寄る「がやがや会議」や、若い世代向けの「おとなの夜学」、学校への訪問読み聞かせなどの事例が映像で紹介されました。

また、中高生との交流の場として設けられた「心の叫びを聞け！掲示板」に実際投稿された内容を例に挙げ、図書館が情報提供の場に留まらず、心の拠り所となり得ることが示されました。

図書館は屋根のついた公園

講演の終盤では、ノルウェーの図書館法が紹介されました。

「図書館は屋根のついた公園。ここは図書館だよ。みんな、なんでおしゃべりしないの？」

この一文は筑波大学 図書館情報メディア系教授の吉田右子氏による超訳です。この図書館法はひとつの起爆剤となり、周りの北欧諸国に伝播していったそうです。

図書館は単なる本の貸し借りの場ではなく、人と街をつなぐ屋根のついた公園であり、豊かな関係性こそが賑わい創出の背景であることを強調されました。

質疑応答

質問「従来型の図書館から全く異なる価値観の図書館へ転換をする際、司書との意識のすり合わせや、関係性を作るために工夫された点があれば教えてください。」

吉成氏「大事な質問ですね。意識のすり合わせは、館長が高い所からこうあるべきと下ろしているだけでは絶対に動きません。そこで、司書全員で展示をやることにしました。各自企画を作って私にプレゼンし、通らないものはボツになる。続けているうちに司書の皆さんが考えることが解るようになってきました。担当を決めてしまうと担当でない人の機会を奪うことにもなります。どう見せて表現するか、それが利用者にとってどう映っているか、反応を受けながらあっという間に身につけていき、私から言うことはなくなっていました。対話と継続する時間の積み重ねだと思います。」

質問「賑やかな図書館が苦手な人達をどのように尊重したか教えてください。」

吉成さん「全ての人を尊重するのは難しいです。決断した理由のひとつは立地です。岐阜市は中核市なので、少し離れた場所にオーソドックスな県立図書館があります。選択肢が増えました、使い分けてください、という言い方をしています。選択肢が増えたのだから同じ方向には行

きません。選択肢があったことが大きかったと思います。

音の問題については、誰も静かじゃない図書館を見たことがなかった開館当初は違和感がありましたが、そのうち活気があっていいね、という雰囲気になっていきました。

『館長を出せ』と言われることはあります。急いで向かって到着まで5分間以上かかる広さだったので、その間1人で利用者とやりとりする司書が『子どもの声は未来の声』の掲示を見て、全員同じ気持ちで対処できるようにしていました。」

講演全体を通して感じられたのは、「誰のための公共施設なのか」を問い続ける姿勢でした。

利用者と対話を続け、何を図書館に望んでいるのか知ることによって多くの回路が生まれ、言葉が入ってくる。その言葉は、関係性の中で絶えず更新されていくものであることが強調されました。

図書館の可能性を根本から捉え直す、非常に実践的で示唆に富んだ講演となりました。

(記録：事務局)

【吉成 信夫 氏 略歴】

1956年東京都出身。CIコンサルティング会社(東京)などに勤務。その後、「石と賢治のミュージアム」研究専門員として企画構想段階より一貫して事業を推進。2001年廃校を利用した「森と風のがっこう」を開校。県立児童館いわて子どもの森初代館長、岐阜市立図書館長を経て、2015年からぎふメディアコスモス初代館長、2020年から総合プロデューサーを務め、2024年4月退任。現在は、明石市本のまち推進アドバイザー、中部学院大学・短期大学客員教授、柳ヶ瀬文化的地層研究会代表を務める。

神奈川図書館協会
令和8年度総会講演会

未来を見据えた 図書館の運営

講師：吉成 信夫 氏

元みんなの森 ゼミメディアコスモス総合プロデューサー
明石市本のまち推進アドバイザー
中部学院大学・短期大学客員教授
柳ヶ瀬文化的地層研究会代表

4月23日(木) 15:10-16:20

受付 13:30
総会開始 14:00

申込締切 4月7日(火)

加賀島館の職員及び個人会員の方は
どなたでもご参加いただけます

<申込方法>
神奈川HP 会員のページ (<https://www.kanagawa-la.jp/>)
「令和8年度 総会出席登録券購入フォーム」より
全加盟館ごとに申込みください。
※個人会員の方は出席券用票にてお申し込みください。

講演会チラシ

令和8年度 人材育成事業

神奈川県図書館協会では、2018年に迎えた創立90周年時に、記念事業の一環として人材育成事業を企画し、5か年計画で実施しました（2019～2023年度）。令和6年度の総会において、今後4年程度継続して実施するとの結論に至ったため、2026年度も募集を行います。

この事業は、外部団体の研修へ参加する機会を増やし、会員の資質向上を図り、神奈川県全体の図書館司書の力量を高めることを目的として行なわれるものです。あらかじめ定められた研修に参加する際の経費を全額または一部助成します。

【令和8年度助成対象研修】

対象研修 ※（ ）内は開催地	開催日	開催者への 応募締切	募集 人数	パック旅行 の利用
① 専門図書館協議会 全国研究集会（未定）	7月中旬（2日間）	（未定）	2名	
② 全国図書館大会（石川県）	11月19日（木）～20日（金） （2日間）	9月頃	2名	○
③ 大学図書館職員短期研修 （東京大学総合図書館）	10月下旬（4日間）	7月10日	受講 決定者	
④ 中堅職員ステップアップ 研修〔1〕 ※オンライン	10～12月（6日間）	6月中旬～ 8月下旬	1名	
⑤ 全国公共図書館研究集会 ＜サービス、総合・経営部門＞ （札幌市）	11月26日（木）～27日（金） （2日間予定）	（未定）	2名	○
⑥ 関東・甲信越静地区図書館 地区別研修（長野県）	12月1日（火）～4日（金） （4日間）	（未定）	1名	○
⑦ 図書館司書専門講座 （東京）	令和9年6月頃（10日間）	5月上旬	1名	
⑧ 児童図書館員養成専門講座 （東京）	前期令和9年6月（6日間） 後期令和9年9～10月（9日間）	4月上旬	受講 決定者	

【助成対象者】

助成申請時から報告書提出時まで、神奈川県図書館協会加盟館に勤務する職員であること。
※前年度に助成が決定するものについて、異動等により受講時に助成対象資格がなくなった場合は助成を取り消すものとします。

【募集期間】 各研修の参加申込締切2週間前

随時募集中！先着順ではありません。③⑧以外は締切後、助成の可否を通知します。

＜募集要項等は、神奈川県図書館協会 HP 会員のページに掲載しております＞